

昔の単位と今の単位

四国災害アーカイブスでは、災害や気象の情報に昔の単位が使われていることがあります。尺貫法による計量単位は原則として昭和33年末まで、土地建物については昭和41年3月末まで使用が認められ、その後メートル法に統一されましたので、年配の方にとっては当たり前のものも多いと思います。今回は災害に関係する単位についてお伝えします。

長さ：1寸が約3cmであることは比較的知られていると思います。1寸の10倍が1尺（約30cm）で、6尺が1間（約1.8m）、10尺が1丈（約3m）、60間が1町（約109m）、36町が1里（約4km）です。例えば、明治19年（1886）8月の風水害では、四万十川で水量の最高が「平水より二丈九尺五寸」高くなったと記されています（「中村町風水害史」1938年）。通常より水位が9m弱上昇したということです。

面積：1坪が約3.3㎡で、30坪が1畝（約99㎡）、10畝が1反（約992㎡）、10反が1町（約9,917㎡）です。愛媛県の「新編肱川町誌」（2003年）には、昭和18年（1943）7月の洪水により、肱川村で死者1人、家屋被害のほか、「田の流失17町9反、冠水8町4反、畑の流失3町4反、冠水4町9反、山林の流失30町、宅地の流失20坪、浸水1,530坪」に及んだことが記載されています。1反≒10アール（a）、1町≒1ヘクタール（ha）とすると、換算しやすいです。

体積：1合が約180ミリリットルで、10合が1升（約1.8リットル）、10升が1斗（約18リットル）、10斗が1石（約180リットル）です。なお、お米1石は、一人が毎日3合ずつ1年間消費する量を表しており、重さにすると約150kgです。香川県の「さぬき一宮郷土誌」（1990年）には、弘化4年（1847）7月の台風により、家屋の倒壊・流出が続出したため、藩は「難渋人男一人に粃一斗五升、女子供には一斗二升宛給与」の救済策を講じたと書かれています。男には27リットル、女・子供には21.6リットルとなります。

重さ：1匁（もんめ）は3.75gです。3.75gはちょうど5円玉の重さです。160匁が1斤（600g）、1,000匁が1貫（3.75kg）です。徳島県の「藍住町史」（1965年）には、明治43年（1910）5月の暴風雨により、桑が「一反歩ニ付貳拾貫目ノ損失ナリ」と記されています。1反当たり20貫=75kgの減収ということです。

気圧：明治以降、気圧は水銀柱ミリメートル（mmHg）で測定され、1気圧=760mmHgでしたが、昭和20年（1945）に1気圧=1,013ミリバール（mb）となり、平成4年（1992）からはヘクトパスカル（hPa）が使われるようになりました。1ミリバール=1ヘクトパスカルです。高知県の「室戸町誌」（1962年）には、昭和9年（1934）の室戸台風について「風速実に六十六米、気圧六百八十四耗」と記述されています。684mmHgはヘクトパスカルで表示すると912hPaですので、室戸台風がいかに強力な台風であったが分かります。

アーカイブスをご利用の際に、上記の単位換算表をお役立ていただければと思います。

昔の単位と今の単位

区分	昔の単位	今の単位
長さ	1寸	約3cm
	1尺=10寸	約30cm
	1間=6尺	約1.8m
	1丈=10尺	約3m
	1町(丁)=60間	約109m
	1里=36町(丁)	約4km
面積	1坪	約3.3㎡
	1畝=30坪	約99㎡
	1反=10畝	約992㎡
	1町=10反	約9,917㎡
体積	1合	約180 <small>ミリリットル</small>
	1升=10合	約1.8 <small>リットル</small>
	1斗=10升	約18 <small>リットル</small>
	1石=10斗	約180 <small>リットル</small>
重さ	1匁	3.75g
	1斤=160匁	600g
	1貫=1,000匁	3.75kg
気圧	1気圧=760mmHg (水銀柱ミリメートル)	約1,013hPa (ヘクトパスカル)